

初夏しよか即時そくじ
(王安石おうあんせき)

石梁せきりよう 茅屋ぼうおく 灣碕わんき 有あり

流水りゆうすい 濺々せんせんとして 兩陂りようひに 度わたる

晴日せいじつ 暖風だんぷう 麦氣ばっきを 生しょうじ

緑陰りよくいん 幽草ゆうそう 花時かじに 勝まさる

石梁茅屋有灣碕 流水濺濺度兩陂
晴日暖風生麥氣 緑陰幽草勝花時

解説 郊外の自分の隠居所の庭を見て、初夏の情景を詠った詩。

語釈 ※即事Ⅱ眼前の景や事を見たまに詩にすること。

※石梁Ⅱ石橋。※茅屋Ⅱ茅でふいた屋根。※灣碕Ⅱ曲っている川岸。

※濺濺Ⅱ水がさらさらと流れること。※陂Ⅱつつみ。※麦氣Ⅱ麦の香り。※幽草Ⅱ人目につかず、ひっそりと茂る草。

通釈 石の橋、茅ぶきの家、そしてぐるつと曲った岸边もある。

流れる水は、さらさらと兩側のつつみの中を渡って行く。初夏のよく晴れた日、暖かい風が吹きわたると、麦の香りがわき起こる。

こんもり茂った木影にひっそりと草も茂り、花の咲くときよりも趣きがある。